

## 懇談会「ビンもパックも再利用～エコ酒屋の取り組み」

8月24日（日）、熊本県水俣市で開催された第17回牛乳パックの再利用を考える全国大会の分科会として、「ビンもパックも再利用～町の回収拠点『エコ酒屋』の取り組み」と題する懇談会が行われました。当日は、集めて使うリサイクル協会が印刷工業会液体カートン部会の委託を受けて行っている「アルミ付飲料用紙容器のリサイクルプロジェクト」の活動紹介や、実際に酒パック回収を実施しているエコ酒屋の皆さんによる報告のほか、さまざまな立場から酒パックのリサイクルや酒屋の活性化に関する意見が飛び交いました。



「もやい」の精神で環境都市づくりを進める水俣市で行われた懇談会。

### ■酒パックも回収できることの周知には一定の時間が必要

初めに印刷工業会液体カートン部会環境委員会の佐藤さんが、プロジェクトの中で「エコ酒屋」を回収拠点とするリサイクルの仕組みが構築され、「エコ酒屋」登録店が順調に増えている現状などを報告。「回収ルートも受け皿もできたので、今後は頑張っているところにスポットを当てながら、酒パックリサイクルの周知や酒造メーカーとの連携を図っていきたい」と抱負を語りました。

続いて、エコ酒屋として活動をスタートしている熊本市・南酒店の南さん、宮崎小売酒販組合専務理事の山本さんが、それぞれの取り組みについて紹介しました。南さんはワンウェイビンが増えてその処理費用が利益を圧迫している現状を紹介し、「製造者・販売者・消費者がそれぞれの責任において循環する容器の使用を促進していくことこそ真の消費者利益につながる」と訴えました。山本さんは、「酒パックのリサイクルというよりも、ごみを出さない運動に協力してほしいと呼びかけて、酒パックを持ってきてもらうようにしている。ただ、今まで捨てていたものが回収できるということを周知するには時間が必要」と指摘しました。

### ■儲かって楽しいリサイクルが大切

小平市では行政が音頭をとってエコ酒屋の取り組みがスタートしています。同市環境部リサイクル推進課長の藤原さんは、「牛乳パックの回収も、小平市が関東で初めて取り組んだ。その経験が市民にあるので、酒パックについてもこれから回収量が増えていくと思うし、行政として少しでも酒屋さんの労力が軽くなるように協力していきたい」と話し、市民・行政・民間の連携による活動の大切さを強調しました。

早稲田商店会会長の安井さんは、リサイクルや福祉を切り口に商店街に元気を取り戻そうとさまざまな試みに挑戦しているアイデアマン。エコステーションや空き缶ラッキーチケットの取り組みを通じて子どもたちとの接点が増えたこともあり、「この3年間子供の保護観察処分がない」と胸を張りました。また、「儲かって楽しいリサイクルをモットーにしているから続いている。酒パックのリサイクルにも何かインセンティブがつけられたら、もっと広がりが出るのでは」との提案がありました。

### ■生協でもアルミパックを回収

エコ酒屋に集積された酒パックの回収には、雑ビン回収の仕組みを持つ日本山村硝子が協力してくれることになっています。同社の大塚さんは、「ビンは1600度の高温にしないとガラスにならないが、紙のリサイクルはずっと投入エネルギーが少なく済む」と、紙の資源としての重要性を指摘しています。

九州龍谷短大助教授の西光さんは、「まちづくりの基本はつなぐこと。今までバラバラだったものがつながることによって新しいシステムができる」と、酒パックリサイクルの取り組みを評価しました。

首都圏コープ事業連合でも、独自にアルミパックの回収を実施しています。しかし、牛乳パックが100%以上（つまり生協以外のパックも回収される）の回収率を維持しているのに比べ、アルミパックはまだ30%程度で伸び悩んでいるそうです。

熊本障害者労働センターでは、酒パックも牛乳パックと同様に回収し、手すきカレンダーなどの原料として活用しています。

### ■アルミ残さを燃料化しているメーカーも

市民からは、アルミパックをリサイクルする場合に発生する残さをどうするかという質問も出され、回収した酒パックの受け皿となる製紙メーカー3社から、次のような回答がありました。信榮製紙は、「川崎工場ではアルミ残さを燃料化し、灰はセメントの原料として利用している。当社では牛乳パックもアルミパックも関係なく使える」

（川原さん）。丸富製紙は、「沼津工場ではアルミパックを受け入れており、残さは製鉄会社の鎮静剤として使われている」（佐野さん）。西日本衛材は「アルミパックを受け入れている家庭紙メーカーは、関西では当社のみ。残さは、現在は産廃として処理しているが、将来的には燃料化も考える必要が出てくるかも知れない」（柿屋さん）。

日本酒造組合中央会からも参加があり、「業界全体としてどう取り組むかは難しい問題があるが、酒パックのリサイクルは避けて通れない課題。小売の団体等とも話をしながら、何ができるか検討していきたい」とのことでした。

酒類販売の規制緩和がいよいよ解禁され、酒販店の経営をめぐる環境が厳しさを増す中、エコ酒屋の取り組みはますます注目を集めそうです。

# 関西圏の未洗浄紙パック中間処理場 滋賀県水口町に誕生！

集めて使うリサイクル協会はこのほど、滋賀県水口町の(株)水口テクノスのリサイクルセンターに、未洗浄紙パックの裁断洗浄機を納入しました。関東(山梨)でのリサイクルセンターコドに続き、東西で未洗浄紙パック中間処理場が整備されたこととなります。

同リサイクルセンターでは、当面水口町の保育園・幼稚園・小中学校合わせて14校の学乳パックを引き取り、裁断洗浄の上再生紙原料として製紙会社に納入します。また来年10月1日には、同町と信楽町、甲南町、甲賀町、土山町の5町が合併して、人口約10万人の甲賀市としてスタートする予定。この合併に備え、さらに広域での学乳パック回収も視野に入れていきます。

10月初めに150坪の新規建屋が完成し、10月6日に機械が設置されました。学乳パックの回収は同月14日からスタートし、16日の試運転を行った後、現在は順調に稼働しています。

関西にも未洗浄紙パックの中間処理場が誕生したことで、学乳のみならず事業系の未洗浄紙パック、工場から出る充填



損紙などのリサイクルが大きく前進していくものと期待されています。

＜(株)水口テクノス リサイクルセンター＞  
滋賀県甲賀郡水口町大字松尾362-22  
TEL.0748-62-1959 FAX 0748-63-1960

## 第4回酒パック・リサイクリング問題研究会 (10/7)

10月7日(火)、大阪産業創造館において、第4回酒パック・リサイクリング問題研究会が開催されました。容器メーカー、酒造メーカー、酒販店、再生紙メーカーなどから30名が参加し、酒パックリサイクルの現状や問題点などが話し合われました。



まず印刷工業会から、アルミ付飲料用紙容器リサイクルプロジェクトの説明。その後、エコ酒屋として回収に取り組んでいる熊本酒販組合理事長の中山酒店、京都の梅木酒店のお二方から、現場の苦労や実態をお話いただきました。

さらに、酒パックを原料として商品を作っている西日本衛材、大和板紙、ルイスコーポレーション、紙好き交流センター麦の会からは、それぞれの酒パック再利用商品を前に各社の商品についての説明がありました。夕刻から行われた懇親会の中でも、障害者作業所をネットワークしてはがきや名刺など各種の手すき紙製品を作っている麦の会には、酒造メーカー等からサンプルの注文などが相次いでいました。

牛乳パックのリサイクルがほとんど市民の活力で動き出したことを考えれば、酒パックリサイクルのそれぞれの分野を担う各企業が、関心を持ってこれだけ集まってきていただいていることは心強いばかりです。

酒パックのリサイクルは、いまスタートしたばかりです。いろいろ課題もありますが、一つずつみんなで相談しながら、いい方向に前進させていきたいと思っています。さらに多くの酒造メーカーの参加を目指して、今後も呼びかけを続けていく考えです。

### 【お知らせ】

### シンポジウム「パックマークとグリーン購入」

12月9日(火) 東京で開催

＜日時＞ 2003年12月9日(火) 13時～16時

＜会場＞ 全理連ビル9階会議室(JR代々木駅北口)

＜入場料＞ 無料

\* 詳細についてはお問い合わせください。

\* このシンポジウムは地球環境基金の助成により行われるものです。

## 2003年度通常総会&セミナーを開催 (6/27)

6月27日(金)、集めて使うリサイクル協会の2003年度通常総会が行われました。当日は会員総数54のうち36名・社の参加があり、2002年度の事業報告と収支決算、2003年度の事業計画と収支予算などについて審議の結果、原案のとおり承認されました。また、より社会的責任のある立場から活動に取り組んでいくため、組織形態を任意団体からNPO法人に切り替える方針についても全員一致で承認されました。事務局では、2004年春の法人登記を目指して準備を進めています。

総会に引き続いて、公開セミナー「一廃?産廃?資源?ごみ? どうなる廃棄物処理法改正」が行われ、前半は環境カウンセラーの川島和義さん(枚方市東部整備部)が今年改正された廃棄物処理法のポイントなどについて講演を行いました。後半は大阪大学の森住明弘さんと川島さんのトークにより、改正後の廃棄物行政やリサイクルのあり方などを考えました。

## 会員募集中!

集めて使うリサイクル協会は、企業や団体、市民の方々の多様なリサイクル活動をサポートします。

＜年会費＞ 企業会員=60,000円

個人会員=1,000円

## 会員の皆さまへ

企業会員の新しいリサイクル商品に関する情報や、リサイクルに関する取り組みなど、また個人会員のリサイクル活動などを、紙上でご紹介します。掲載料は無料です。どんどん情報をお寄せください!

<http://www.r-kyokai.org>